湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名　　湘南医療大学

所 属　　保健医療学部 看護学科

名 前　　松月 みどり

作成日　2026年 5 月8日

1. 教育の責任

担当科目:【必須】生涯発達看護論、基盤実習1、ナーシングスキル1、ナーシングスキルⅡ、ナーシングプロセス1、看護管理、チーム医療論　基盤実習Ⅱ 【薬学部】看護理論（必須）【実践教育コアセンター】看護管理者ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベル　実習指導者講習会

教育活動:基盤共通看護分野領域長、1 年生、2 年生チューター長、FD委員会委員長

ハラスメント委員会委員：相談窓口になっており、働く人々の心理的健康の維持に貢献したい。

責務:看護学科は、今年度東戸塚キャンパス、山手キャンパス、茅ヶ崎キャンパスの3キャンパスの運営である。領域長として、茅ヶ崎キャンパスと東戸塚キャンパスの教育の質の維持やキャンパス格差が発生しないための活動を行う。今後想定される改革にも、教員の心理的安全性を確保しながら、変化に対応できる教員の意識醸成が重要である。

講義、演習、実習活動が円滑にかつ、教育の質向上を確保しながら、あらゆることに配慮し、ふれあいグループの発展に寄与することである。そのためには、東戸塚キャンパスや専攻科、看護学科の協働や教員間の良いコミュニケーションがとても大切であると考えている。風通しの良いチームビルディングに寄与する事である。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護教育の基本は、自律自立して受け持ち患者に責任をもって臨床判断し、2 チャレンジルールに従って、医師に対しても、先輩看護師対してもSBER で提案できる看護師を育てる事だと考えている。また、日本の医療の未来は、看護職の判断の質でその良否が決定されると考えても過言ではない。そのためには、知識や過去の陳腐化した看護演習、実習の切り売りではなく、臨床推論、臨床判断が適切に実施できる看護師の育成が最重要課題である。また、日進月歩する医学、看護学、世界情勢の信頼できる最新情報を手に入れる方法を教育して、知識の引き出しを増やして、学生自身が必要な時に自由に引き出せる基本的行動を身に着けることだと考えている。日本の看護の特徴は「病む人に寄り添う看護」である。世代が変わってもこの看護マインドは受け継がれているので、そのマインドを大切にし、進化する看護師を育成する事だと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私が、看護基礎教育を卒業するときに、目指したのは「行動変容」「看護業務に専念する事」でした。昭和の看護師の夜勤業務の最後には、セントラルサプライから支給された注射器や滅菌物を使用後に返却するための員数の数をカウントする作業があった。しかし私は、使用後の器材を返却するのは看護助手の役割である。医師のお手伝い業務はしないをモットーに、そのような時間があったら患者のベッドサイドに行く時間の確保に努めていた。長い臨床看護師生活の最後の看護部長時代には時代の先を読んだ看護の提供体制の構築に努めていた。（新卒看護師のユニークな育成、看護助手も含む全看護職員が平等で楽しく学び楽しく仕事する環境など）マグネットホスピタルを形成し、看護師採用に職業紹介所を使わずとも確保できるシステムを構築していた。ひとりひとりが大切される組織をつくれば人は集まってきます。

また、中央手術室管理者時代に、ベトナムの麻酔看護師研修を受け入れていた。NPは米国を含む複数の国で活動しており、その背景を学び、日本看護協会理事時代の特定行為研修推進のきっかけになった。高度救命救急センター時代は国際学会で看護方法を発表し、世界の人たちと交流してきた。

3. 教育の方法・戦略

講義、演習、実習のどの教育方法でも学生は顔が違うように、それぞれの受け止めや理解には差があることを前提としています。看護教育は職業教育の側面があるので、一定のレベルに達しているかどうかを、科目の積み上げの一定の時期にしっかり評価して、未達成の学生に対しては、補習、学修指導などのきめ細かな対応が必要と考えている。（学習障害の学生も散見され、日々私もケース学習している。）

講義では80%の学生が理解できる内容で組み立てている。（事前学習、リフレクション、GW、ミニテスト）具体的には

① 学生が体験したことのない看護管理の講義では、シミレーション、アクティヴラーニング手法を用いたら、学生の理解がとても深まり教育効果があった。今後も継続していく。

②講義では具体例を多く入れて、理解を促す。

③演習は、演習終了直後に振り返りの内容を詳細に決定して、重要なポイントを更に確かな知識にする。

④講義では重要な内容項目を箇条書きにして、学生が記入する。講義のあとにmanaba に説明資料をアップする。

⑤講義に関連する無料のサイトで自己チェックしその結果を提出。

【授業以外の諸活動・教育活動の成果】

病院のコンサルテーション、特定行為指導者研修の企画評価運営実施、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会監事、医療機器材料 JIS 委員会、日本臨床医学マネジメント学会理事

4. 改善のための努力

教育には満点が無いので、課題は多い。Z 世代、α世代の理解を深め、新しい着眼点や発想を模索中。アクティヴラーニングなど、AI機器を使って新しい教育ができる事を願う。

5. 今後の目標

看護学科の教員がそれぞれにお互いを尊重し認め合い、研究活動が継続できれる環境を作りたい。、職位と領域を超えて小さな事でもフランクに相談し協働し、トップダウンではなく、看護教育の質向上についてディスカッションし教育活動できるようになると良いと考えている。